私たちの仕事は、特別な日を創ることです

CERESPO NEWS

vol. 105 July 2018

40th and more
セレスポ
セレスポ・ニュース
平成30年7月発行
第105号

復興公営住宅 勿来酒井団地
オープニングイベント

「七転び八起き」震災復興に向けて二つの街が協力

セレスポ Pick Up

トークセッション
「パラスポーツ×ビジュアルコミュニケーション」を開催しました!

復興公営住宅 勿来酒井団地オープニングイベント

復興という言葉がなくても住民のかたが交流できる場にしていきたい

福島県いわき市に生まれた復興公営住宅 勿来(なこそ)酒井団地が、施設供用を開始しました。東日本大震災の影響で、福島県双葉町から避難してきた団地住民と勿来に住む地域住民との交流を深めるオープニングイベントが6月23日に開催。今回は、双葉町役場の中野さまからイベントに至った経緯、込めた想いについてお話を伺いました。

「ようやくここまで来ることができました」

太平洋に面している福島県双葉町は、東日本大震災で避難指示がでた地域のひとつ。現在も、避難している住民も多く、中野さんを含めた町職員は「みなさんが落ち着いて暮らせる場所を」と各地方自治体と協力した復興支援を進めていました。復興公営住宅 勿来酒井団地はその想いが結実した場所のひとつ。

「避難指示によって馴染みのある双葉町から離れて、各地で暮らしている住民のかたは現在もまだ少なくありません。勿来酒井団地は、『落ち着いて暮らせる場所を』という想いを受けてくれたいわき市さまと協力して生まれました。団地のほか、サポートセンターや診療所、商業施設も併設され、地域住民のかたも利用できる施設になっています。みなさんに『集まる場所ができたんだ』と知っていただきたいと思い、オープニングイベントを開催しました」(中野さん)

施設は「七転び八起き」の想いを込めた双葉町のシンボル、ダルマがあしらわれており、イベントでもダルマ引きが行われました。また、いわき市や双葉町から太鼓やフラダンスなどの団体も参加し、団地の供用開始を祝いました。

施設内では、関西大学と芝浦工業大学の学生がボランティアとしてイベントに参加してくれました。また集会場では、折り紙で双葉ダルマを作るワークショップを開催し、子どもから高齢者まで、ダルマを折って、想いを込めました。

「今回は別会場での同時開催イベントもあったため、規模が大きく、シャトルバスの運行スケジュールの調整など、考えるべきことが多かったですが福島県外からも大学生などが応援にかけつけてくれ無事に終了することができました。イベントは毎回違うテーマ、状況から準備を進めていくため、さまざまな課題が生まれます。しかし、この課題を解決する度に一緒に準備を進めているメ

福島県双葉町役場いわき事務所
住民生活課 課長　中野弘紀さん

ンバーとのつながりが強くなっていくと感じています」(中野さん)

最後に中野さんは「復興という言葉がなくても住民のかたが交流できる場にしていきたい」と語ってくれました。東日本大震災は福島県を含め、東北地方を中心に、日本中が大きな傷を負いました。しかし、「七転び八起き」、みんなで協力して乗り越えていこう、つながりを深めて新しい暮らしを作ろう。そんな想いが中野さん、イベントに参加していた団体、住民のかたがたから感じられました。

EventData

- 復興公営住宅 勿来(なこそ)酒井団地オープニングイベント
- 2018年6月23日
- 復興公営住宅勿来酒井団地内
- 復興公営住宅勿来酒井団地オープニングイベント実行委員会(双葉町商工会、双葉町、夢ふたば人、双葉町商工会青年部・女性部、勿来ひと・まち未来会議)

REPORT　株式会社セレスポ 仙台支店　守屋 智喜(もりや ともよし)

復興が1日でも早く実現できるようお手伝いしていきたい

今回のイベントでは、会場設営からゾーニング、申請、広報、シャトルバス関連、コンサートの実施など幅広い仕事を任せていただきました。コンサートは、当日無料配布した400枚のチケットのうち、ほとんどのかたにご参加いただき、大盛況となりました。

本イベントは、東日本大震災の影響を受けた多くの人たちの想いがひとつになるイベントです。避難した住民、地元に住んでいるかた、いわき市や双葉町の職員さまなど、本イベントにどんな想いと期待を持っているのかを考えていきました。実行委員会には地元勿来からも参加いただき、それぞれの想いを1つずつ実行していくことに配慮しました。

私たちの支店がある宮城県仙台市も震災で大きな被害を受けましたが、震災の爪痕は7年以上が経った現在でも深いことを痛感しています。1人で向き合うには大きな爪痕に、みんなで一緒に向き合って乗り越えていこうというイベントに関われたことは嬉しく思います。

セレスポスタッフ(守屋:左から2番目)

イベントは人と人のつながりを強く感じられるものです。少しずつでもつながりを深めて、「七転び八起き」の気持ちで、復興が1日でも早く実現できるようお手伝いさせていただきたいです。

セレスポ Pick Up

トークセッション「パラスポーツ×ビジュアルコミュニケーション」を開催しました!

2018年7月5日にパラアイスホッケー選手の上原大祐氏と、写真家の越智貴雄氏をお招きし、「パラスポーツ×ビジュアルコミュニケーション」をテーマにトークセッションを開催しました。

「2020年に向けて少しずつではありますが社会全体の中でパラスポーツの考えかたが変わりつつあると感じています」とお2人は自身の経験を交えてお話してくれました。その中で、色々な分野と協力しながら、パラスポーツがみなさんにとって“日常化”そして“自分事化”できるように尽力したいという想いを持って活動していると語っていただきました。真剣にパラスポーツのあり方を考えながらも、軽快なトークや参加者からの質問も交えて会場は終始笑顔に包まれていました。
セレスポでも、その一端を担っていけるよう、ひきつづき定期的なセミナーを開催してまいります。ぜひみなさんにもご参加いただき、一緒にパラスポーツの新たな魅力を発見していきたいと思います。

パラアイスホッケー選手の上原大祐氏

写真家の越智貴雄氏

発行 発行日：平成30年7月25日

発行元　株式会社セレスポ（CERESPO CO.,LTD.）
〒170-0004 東京都豊島区北大塚1-21-5（本社）
TEL：03(5974)1111　FAX：03(5394)7651
http://www.cerespo.co.jp/
編　集　山川　譲（yawn）
記　事　コーポレートデザイン室
デザイン　山本制作所
CERESPO NEWSに関するお問い合わせは
株式会社セレスポ　コーポレートデザイン室(cd@cerespo.co.jp)まで

編集後記

平成最後の夏がやってまいりました！関東地方は平年(7月21日頃)よりも22日早く、昨年(7月6日頃)より7日早い梅雨明けとなりました。梅雨が明けてから急増するのが熱中症。8月のお盆頃までが発生のピークと言われており、昨年の救急搬送人員数は 26,702 人です。(総務省報道資料)
涼しい素材の衣服を着用したり、直射日光を避けたり、日々の生活の中の工夫や心がけで暑さはやわらげることができます。日常的に適度な運動をおこない、適切な食事、十分な睡眠をとったうえでの、こまめな水分補給や適度の塩分補給で暑さに負けない体づくりが大切です。いろいろなイベントが増えはじめるこのシーズン。早めの熱中症対策と日頃のケアで、夏を元気に過ごしましょう。